

熊野からきた巨木

円長寺のナギ

匠探訪

- 50 -



樹齢700年以上とされる円長寺のナギ

巨樹・巨木(きよじゆ・きよぼく)の話題が取り上げられることが増えたような気がします。

平成20年発行の「千葉県の巨樹・巨木200選」では、県内を4つの地域に分け、それぞれの地域ごとに約50本ずつの巨樹・巨木が選ばれています。

香取・海匝・山武の県東地域の49本のうち、市内からは「安久山(あくやま・飯高地区)の大椎の木・スタジイ」、「飯高寺(はんこうじ・飯高地区)

のスギ」、「松山神社(匠磋地区)大杉・スギ」、「生尾(おおいお)神社(匠磋地区)大杉・スギ」、「野手円長寺(野田地区)の那樹・ナギ」、「川辺葉師寺(栄地区)の大楨・イヌマキ」の6本が選ばれました。巨樹・巨木は、一般に地面から1・3m地点の幹周(太さ)計測値が3m以上のものとされています。

県内の巨樹・巨木200選のうち、ナギは2本だけで、円長寺のものは山門(仁王門)から本堂へ向かう参道の右手にあり、樹高9・5m、幹周4・9m、樹齢は700年以上といわれています。

『木の太百科解説編』によると、ナギの名はその葉が万葉集にあるナギ、現在のミズアオイ科の葉に似ているからとの説があり、自然分布は

本州では山口県が北限とされ、四国・九州など暖地に多いとされます。記載内容で注目されるのが、「熊野権現の信仰と結びついて拡がり、神社によく植えられ…」というくだりです。

野田地区周辺は平安時代後期の1000年ころには、現在の和歌山県熊野三山の莊園(しようえん)で「匠磋南条莊」だったとされています。これらを少し無理して結びつけると、円長寺のナギは熊野の関係者によって植樹され、そこに寺が建てられたとも考えられますが、樹齢700年以上とされるナギの木だけが、その由緒を知っているのかも知れません。

円長寺の山門の仁王尊には次のような伝説があります。昔、嵐が続き困り果てた村びとが神仏にお参りすると、風雨がおさまり、浜に2体の仁王様が流れ着きました。村びとに担がれ円長寺の前まで来ると、急に重くなったのでそこにまつられたのだろうと山門を建てたといえます。「海中出現の仁王尊」伝説も、紀州や関西圏との結びつきを思い起こさせます。

問 八日市場図書館 ☎ 73・3746

走り梅雨昭和を偲ぶ蓑と笠
分け入れば風の匂ひや竹落葉
梅雨寒やすぐそこといふ道遠し
麦あらしチェーンをなほす男の子
里若葉篋を編む指の太かりき
四國路のなべて卵の花明りかな
紫陽花を選ぶ缺はなみの迷ひけり

八日市場ハ
八日市場イ
八日市場イ
八日市場イ
八日市場イ
八日市場イ
八日市場ハ

川口 城司 推薦

八日市場ハ
八日市場イ
八日市場イ
八日市場イ
八日市場イ
八日市場イ
八日市場ハ

依知川きよ
横須賀
吉野 ヨシ
山崎 伸
大川 宜子
石毛 浩子
高安せい子
江波戸知巳

川口 城司 推薦

運不運氣にせず趣味に生きる齡
運不運生涯付いて回るもの
脇役が主役に代わる運不運
風向きが明暗分ける火事現場
坊っちゃんに無理だ庶民の気持ちなど
平成の維新となって世を治め
敏腕の秘書に政治家格を上げ
政策が選挙に左右されずれる

長谷 石毛惣一郎
木積 佐久間美智子
八日市場ホ 菱木 静枝
八日市場イ 森 あつし
飯塚 鈴木ツネ子
八日市場イ 伊藤さとこ
八日市場イ 常世田やす子
八日市場イ 鈴木十世志

川口 城司 推薦

高梨 果宝 推薦

川柳

運不運氣にせず趣味に生きる齡
運不運生涯付いて回るもの
脇役が主役に代わる運不運
風向きが明暗分ける火事現場
坊っちゃんに無理だ庶民の気持ちなど
平成の維新となって世を治め
敏腕の秘書に政治家格を上げ
政策が選挙に左右されずれる

川口 城司 推薦

あて先： 匠磋市秘書課広報聴班
〒289-2198
匠磋市八日市場ハ793番地2
☎ 73・0080 FAX 72・1114